THE 2016 WBSC JUNIOR MEN'S WORLD CHAMPIONSHIP

SOFTBALL

in MIDLAND, MICHIGAN, USA

Japan Softball Association

2016 第11回世界男子ジュニア選手権大会

男子U19日本代表
世界ジュニア選手権制覇！

選手、スタッフと戦いの記録

U19 WORLD CHAMPION

2016 第11回世界男子ジュニア選手権大会
男子U19日本代表選手プロフィール

PLAYERS

＊ポジション別・50 音順

小山 玲央 Reo KOYAMA　PITCHER 1

DATA
- ●投手／右投右打
- ●所属：佐世保西高（長崎）
- ●生年月日：1998.5.9
- ●出身地：長崎
- ●出身校：早岐中（長崎）
- ●血液型：A
- ●身長・体重：179cm　78kg

〈主な国内大会の成績〉 高校／'15インターハイ優勝、国体３位、'16選抜優勝

酒井 匠 Takumi SAKAI　PITCHER 15

DATA
- ●投手／右投右打
- ●所属：日本体育大（東京）
- ●生年月日：1997.5.22
- ●出身地：千葉
- ●出身校：四街道中（千葉）→千葉敬愛高（千葉）
- ●血液型：O
- ●身長・体重：181cm　78kg

〈主な国内大会の成績〉 高校／'15インターハイ準優勝

長井 風雅 Fuga NAGAI　PITCHER 21

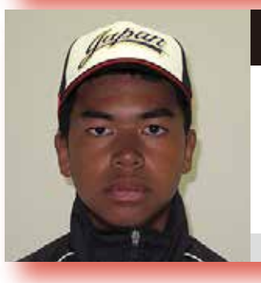
DATA
- ●投手／右投右打
- ●所属：御調高（広島）
- ●生年月日：1998.4.2
- ●出身地：広島
- ●出身校：御調中（広島）
- ●血液型：A
- ●身長・体重：183cm　77kg

〈主な国内大会の成績〉 中学／'13都道府県対抗全日本中学生・全中準優勝　高校／'15国体準優勝

中島 優人 Yuto NAKAJIMA　PITCHER 18

DATA
- ●投手／右投右打
- ●所属：国士舘大（東京）
- ●生年月日：1997.2.8
- ●出身地：埼玉
- ●出身校：川口市立北中（埼玉）→埼玉栄高（埼玉）
- ●血液型：B
- ●身長・体重：177cm　70kg

〈主な国内大会の成績〉 高校／'13国体優勝、'14インターハイ・国体３位



メーンズ ジェーラン 秀吉 Hideki MENZU JERAN　PITCHER 11

DATA
- ●投手／左投左打
- ●所属：大村工業高（長崎）
- ●生年月日：1998.10.24
- ●出身地：長崎
- ●出身校：川棚中（長崎）
- ●血液型：B
- ●身長・体重：179cm　68kg

〈主な国内大会の成績〉 高校／'14インターハイ優勝、'15選抜優勝

上田 郁也 Fumiya UEDA　CATCHER 24

DATA
- ●捕手／右投右打
- ●所属：日本体育大（東京）
- ●生年月日：1997.6.29
- ●出身地：愛媛
- ●出身校：岡田中（愛媛）→松山工業高（愛媛）
- ●血液型：O
- ●身長・体重：173cm　73kg

〈主な国内大会の成績〉 高校／'13インターハイ優勝、'15インターハイ３位、国体優勝

調 和政 Kazumasa SHIRABE　CATCHER 2

DATA
- ●捕手／右投右打
- ●所属：佐世保西高（長崎）
- ●生年月日：1998.9.21
- ●出身地：長崎
- ●出身校：日野中（長崎）
- ●血液型：AB
- ●身長・体重：180cm　78kg

〈主な国内大会の成績〉 高校／'15インターハイ優勝、国体３位、'16選抜優勝

芦田 翔 Sho ASHIDA　INFIELDER 12

DATA
- ●内野手／右投左打
- ●所属：神戸学院大（兵庫）
- ●生年月日：1998.1.12
- ●出身地：広島
- ●出身校：御調中（広島）→御調高（広島）
- ●血液型：A
- ●身長・体重：170cm　60kg

〈主な国内大会の成績〉 高校／'15国体準優勝

今井 悠貴 Yuki IMAI　INFIELDER 4

DATA
- ●内野手／右投左打
- ●所属：平林金属（岡山）
- ●生年月日：1997.10.21
- ●出身地：岡山
- ●出身校：御南中（岡山）→倉敷高（岡山）
- ●血液型：B
- ●身長・体重：168cm　63kg

昆野 智之 Tomoyuki KONNO　INFIELDER 6

DATA
- ●内野手／右投左打
- ●所属：IPU 環太平洋大（岡山）
- ●生年月日：1998.1.8
- ●出身地：神奈川
- ●出身校：大和中（神奈川）→光明学園相模原高（神奈川）
- ●血液型：O
- ●身長・体重：172cm　66kg

坂田 大士 Hiroshi SAKATA　INFIELDER 5

DATA
- ●内野手／右投右打
- ●所属：熊本工業高（熊本）
- ●生年月日：1999.3.25
- ●出身地：熊本
- ●出身校：御船中（熊本）
- ●血液型：O
- ●身長・体重：174cm　65kg

竹森 歩夢　Ayumu TAKEMORI　INFIELDER 10

DATA

- ●内野手／右投右打
- ●所属：日本体育大（東京）
- ●生年月日：1997.2.23
- ●出身地：福岡
- ●出身校：志免中（福岡）→九州産業大付属九州高（福岡）
- ●血液型：O
- ●身長・体重：166cm　66kg

〈主な国内大会の成績〉 高校／'12インターハイ準優勝

真﨑 海斗　Kaito MASAKI　INFIELDER 3

DATA

- ●内野手／右投右打
- ●所属：佐世保西高（長崎）
- ●生年月日：1998.9.19
- ●出身地：長崎
- ●出身校：日野中（長崎）
- ●血液型：A
- ●身長・体重：173cm　77kg

〈主な国内大会の成績〉 高校／'15インターハイ優勝、国体３位、'16選抜優勝

松尾 舞輝　Maiki MATSUO　INFIELDER 17

DATA

- ●内野手／左投左打
- ●所属：ジェイテクト（徳島）
- ●生年月日：1998.1.3
- ●出身地：長崎
- ●出身校：愛野中（長崎）→大村工業高（長崎）
- ●血液型：O
- ●身長・体重：165cm　70kg

〈主な国内大会の成績〉 高校／'14選抜・インターハイ優勝、'15選抜優勝、国体３位

池田 泰一朗　Taichiro IKEDA　OUTFIELDER 7

DATA

- ●外野手／右投右打
- ●所属：日本体育大（東京）
- ●生年月日：1997.1.17
- ●出身地：兵庫
- ●出身校：野々池中（兵庫）→滝川第二高（兵庫）
- ●血液型：AB
- ●身長・体重：170cm　69kg

瓦口 昴弥　Takaya KAWARAGUCHI　OUTFIELDER 8

DATA

- ●外野手／右投右打
- ●所属：オール福岡（福岡）
- ●生年月日：1997.11.10
- ●出身地：福岡
- ●出身校：箱崎清松中（福岡）→九州産業大付属九州高（福岡）
- ●血液型：O
- ●身長・体重：186cm　86kg

森田 健斗　Kento MORITA　OUTFIELDER 23

DATA

- ●外野手／右投右打
- ●所属：ホンダエンジニアリング（栃木）
- ●生年月日：1997.10.20
- ●出身地：広島
- ●出身校：御調中（広島）→御調高（広島）
- ●血液型：A
- ●身長・体重：177cm　67kg

〈主な国内大会の成績〉 高校／'15国体準優勝

TEAM JAPAN MEMBERS

TEAM STAFF

団 長
三宅 豊
（公財）日本ソフトボール協会

ヘッドコーチ
山口 義男
長崎県立大村工業高校

アシスタントコーチ
吉村 啓
平林金属

アシスタントコーチ
田中 徹浩
新島学園高校

マネージャー
松繁 冬樹
高知県立高知農業高校

トレーナー
田岡 幸一
Body Laboratory

広　報
竹崎 治　日本体育社

帯同審判
足袋抜 豊松　（公財）日本ソフトボール協会

大会第1日・予選リーグ第1戦／ vs イスラエル

7/24 Sunday

JAPAN vs ISRAEL

日　　本	00323	8	（日）○中島優人・メーンズ ジェーラン 秀吉 ― 上田郁也・調和政
イスラエル	00000	0	

※大会規定により5回得点差コールド

戦 評

第11回世界男子ジュニア選手権大会は、まず参加全12カ国（当初は13カ国の参加予定であったが、大会直前にベネズエラが出場をキャンセル。全12カ国での開催となった）を２つのPOOL（POOL・A、POOL・B）に振り分け、シングルラウンドロビン（１回戦総当たり）の予選リーグを実施。予選リーグPOOL・A、POOL・Bの上位４チームが決勝トーナメントへ、その他のチームは順位決定戦に進み、決勝トーナメントはダブルページシステム（敗者復活戦を含むトーナメント）で「世界一の座」が争われ、予選リーグPOOL・Bの日本は、この日、初戦でイスラエルと対戦することになった。

チームを「勢いづける」ためにも、重要な初戦。力的にはもちろん日本が上であり、初回から「エンジン全開！」といきたいところであったが、大会本番独特の緊張感からかどこか動きが硬く、初回、２回表と無得点。迎えた３回表、日本はこの回先頭の８番・今井悠貴が四球で出塁し、続く９番・上田郁也の犠打で二塁へ進塁すると、ここから相手投手の制球の乱れに乗じ、３連続四球で労せずして１点を先制。なおも一死満塁のチャンスが続き、４番・真◉海斗のショートゴロの間に２点目。二塁走者・昆野智之もショートから一塁への送球間に生じた一瞬の隙を突いて果敢に本塁を陥れ、この回３点を挙げた。

この３点で肩の荷が下りた日本は、続く４回表にも６番・池田泰一朗、７番・坂田大士が連続四球で出塁。８番・今井悠貴もキッチリと送りバントを成功させ、一死二・三塁のチャンスを作ると、９番・上田郁也がしぶとく二遊間を破り、二者が生還。こうなるとイスラエルの集中力は次第に切れていき、５回表には一死一・二塁から６番・池田泰一朗のセンター前タイムリー、さらに相手守備の乱れに乗じてダメ押しの３点を追加。得点差を８点に広げ、勝利を決定的なものとした。

守っては、大事な初戦で先発投手を任された中島優人が、初回に先頭打者を四球で歩かせ、そこから一死一・二塁といきなりピンチを背負う場面もありはしたものの、決して得点は許さず、３イニングを貫禄のノーヒットピッチング。４回裏、５回裏は「チーム唯一の左腕」である２番手・メーンズ ジェーラン 秀吉が同じくノーヒットピッチングで締めくくり、８－０の完封勝利。打線はわずか３安打に終わったが、最終的には「チーム力の差」を見せつける形となり、まずはイスラエルに５回コールド勝ち。第１回大会（1981年）以来となる「優勝」「世界一」に向けて上々の滑り出しを見せた。

大会第2日・予選リーグ第2戦／ vs 南アフリカ

7/25 Monday

JAPAN vs SOUTH AFRICA

日　　本	50045	14	（日）中島優人・○酒井匠・メーンズ ジェーラン 秀吉 ― 上田郁也
南アフリカ	00000	0	（本塁打）真◉海斗、森田健斗、上田郁也
			（三塁打）瓦口昂弥
			（二塁打）松尾舞輝、森田健斗

※大会規定により5回得点差コールド

戦 評

先攻の日本は初回、１番・芦田翔がピッチャー前に絶妙なセーフティーバントを成功させ、出塁。この後、四球、ワイルドピッチで無死二・三塁のチャンスを作ると、一死後、４番・真◉海斗が甘く入ってきたチェンジアップを逃さず振り抜き、レフトへ特大のスリーランホームラン。さらに二死後、６番・池田泰一朗の右中間へのヒット、盗塁、死球、パスボールで二・三塁と再びチャンスを作り、８番・森田健斗のセカンドへの痛烈な当たりが野手のグラブをはじく（記録はヒット）間に二者が生還。この回いきなり５点を先制し、早くも試合の主導権を握った。

日本打線は２回表、３回表は無得点に終わったものの、迎えた４回表、この回先頭の８番・森田健斗がレフトへ豪快なソロホームランを叩き込み、６点目を追加。なおもこの後、二死二塁の場面で３番・瓦口昂弥に右中間を切り裂くタイムリースリーベース、４番・真◉海斗にもセンター前タイムリーが飛び出し、１点ずつを加え、この回４得点。５回表には、一死二塁から９番・上田郁也の右中間を破るランニングホームラン、さらに５番・松尾舞輝のライト前タイムリー、相手守備の乱れで再び５点を追加。結局計15安打を浴びせる「猛攻」で大量14点を奪い、南アフリカを圧倒した。

守っては、前日の初戦に続き、この第２戦も「投手陣のまとめ役」中島優人が先発投手を務め、試合を作ると、２番手・酒井匠、３番手・メーンズ ジェーラン 秀吉へとつなぐ余裕の投手リレー。南アフリカ打線に対して被安打２、二塁も踏ませぬ貫禄の投球内容で完封し、14－０の５回コールド勝ちを収め、予選リーグ２勝目を挙げた。

大会第2日・予選リーグ第3戦／ vs ニュージーランド

7/24 Sunday

JAPAN vs NEW ZEALAND

日本	0001000	1
ニュージーランド	0000000	0

（日）○小山玲央 — 調和政
〔三塁打〕瓦口昂弥
〔二塁打〕松尾舞輝

戦 評

ダブルヘッダー２試合目は、前日カナダを３－１で撃破し、POOL・B最大のライバルと目されるニュージーランドと対戦。決勝トーナメントでの戦いを見据え、ニュージーランドが「大会屈指の右腕」ダニエル・チャップマンの先発を回避してきたのに対し、日本は満を持してエース・小山玲央を先発投手に起用。日本では昨年夏のインターハイ、今年春の選抜を続けて制覇し、「夏・春連覇」を成し遂げた「高校ソフトボール界№1投手」が、前回準優勝の強豪・ニュージーランド相手にどのようなピッチングを展開するのか「大きな注目」が集まった。

その小山玲央は立ち上がり、まず先頭のジェローム・マッケンジーを三振に斬って取ると、２番・ダンテ・マタカテアもレフトフライに打ち取り、簡単にツーアウト。３番・レイリー・マケアには三遊間を破られたものの、４番・ジェイコブ・ズルシャーから再び「力」で三振を奪い、初回をしっかりと無失点で切り抜けた。この立ち上がりを無失点に抑えたことが、「エース」を「覚醒」させたか、２回裏はニュージーランド打線から三者連続三振を奪う圧巻の投球内容。３回裏も四球で走者を一人出しはしたが、持ち前の120㎞/h後半の速球、切れ味鋭いライズボールで押しまくり、この回も相手に得点を許すことなく、序盤は両チーム０－０。息詰まる投手戦の様相となった。

試合が動いたのは４回表、日本は一死から５番・松尾舞輝が右中間を破るツーベースを放ち、出塁すると、続く５番・瓦口昂弥がインコースの球を迷わず強振し、三塁線を破るタイムリースリーベース。二塁走者・松尾舞輝の代走で入ったキャプテン・竹森歩夢が本塁へ生還し、ついに喉から手が出るほどほしかった先制点を奪った。

待望の先取点をもらったエース・小山玲央のピッチングは、ここからさらにもう一段ギアを上げたように冴えわたり、その後もニュージーランド打線を翻弄。三宅豊団長も「まるで打たれる気がしない……これはとても高校生のピッチングとは思えない！」と絶賛するほど完璧な投球内容を見せつけ、最後まで得点を許さず、被安打１・奪三振12と文句なしの完封勝利。POOL・B最大のライバル・ニュージーランドを見事１－０で破り、開幕３連勝を飾った。

大会第3日・予選リーグ第4戦／ vs カナダ

7/26 Tuesday

JAPAN vs CANADA

日本	100044	9
カナダ	000001	0

※大会規定により6回得点差コールド

（日）○長井風雅・小山玲央 — 調和政
〔三塁打〕池田泰一朗、芦田翔

戦 評

先攻の日本は初回、一死から２番・昆野智之がサードへの内野安打で出塁。この打球を処理した三塁手の一塁への送球が逸れる間に二塁へ進むと、さらに３番・真◉海斗のショートゴロの間に野手の隙を突いて三塁まで進塁。このソツのない走塁がカナダバッテリーにプレッシャーを与えたか、４番・松尾舞輝の打席で「力み」が生じたカナダ・テイラー・ランダーソンの低めのドロップを捕手が後逸。この間に三塁走者・昆野智之が本塁へと還り、労せずして１点を先制した。

日本の先発投手は、前日のニュージーランド戦で「快投」を見せた小山玲央と同じく、今後の「日本の男子ソフトボール界を担う逸材」と期待される長井風雅。どんな相手にも果敢に立ち向かっていく「闘争心溢れるピッチング」が売りの右腕に大きな注目が集まった。その長井風雅は、初回、カナダの１番・ジェイコブ・ウィッフェン、２番・アベリー・アーセノルトをいきなり連続三振に斬って取ると、３番・アレクサンドル・レミューもショートフライに打ち取り、三者凡退に抑える上々の立ち上がり。その後２回裏、３回裏、４回裏と走者を出しはするものの、相手打者の膝元に鋭く落ちるドロップを主体に決して「タイムリーを許さない」テンポの良いピッチングを展開し、４回まで無失点。先発投手としての役割をしっかりと果たした。

追加点のほしい日本は、迎えた５回表、二死から７番・調和政が三遊間を破るヒットで出塁。ここで８番・池田泰一朗がセンターオーバーのタイムリースリーベースを放ち、大きな２点目を挙げると、なおも代打・竹森歩夢、１番・芦田翔の連続タイムリー、相手守備の乱れで着々と加点し、この回４点を追加。６回表にも、意気消沈し、集中力の切れたカナダの守備の乱れに乗じて４点を奪い、完全に勝負あり。

守っては、前日のニュージーランド戦で完璧なピッチングを見せた小山玲央を５回裏から敢えてリリーフ登板させる「必勝リレー」。若干連投の疲れが見えた小山玲央が６回裏に１点を返されはしたが、２イニングをしっかりと投げ抜き、６回コールド勝ち。ニュージーランドと同じく、予選リーグPOOL・Bのライバルと目されたカナダに９－１で快勝し、開幕から無傷の４連勝。予選リーグ最終日を待たずにPOOL・B１位通過を確定させた。

大会第4日・予選リーグ第5戦／ vs メキシコ

7/27 Wednesday

JAPAN vs MEXICO

日　本	0312000	6	（日）○酒井匠・メーンズ ジェーラン 秀吉・中島優人 — 上田郁也
メキシコ	0001101	3	（本塁打）森田健斗、瓦口昂弥

戦 評

立ち上がりは両チーム走者を出すものの、無得点。日本は２回表、この回先頭の５番・上田郁也の一・二塁間を破るヒット、相手守備の乱れで無死一・二塁とすると、７番・池田泰一朗がキッチリと犠打で送り、一死二・三塁。このチャンスで続く８番・瓦口昂弥が三遊間を痛烈に破り、一気に二者が生還。９番・森田健斗にもセンターへのソロホームランが飛び出し、３点を先制した。

先手を奪い、試合のペースを握った日本は、３回表にも二死二塁から５番・上田郁也のセンター前タイムリーで１点を追加。４回表には無死一塁から日本の「頼れる右の大砲」としてコンスタントな活躍を見せる８番・瓦口昂弥がレフトへ豪快なツーランホームランを叩き込み、着々とリードを広げ、試合の大勢を決めた。

日本の先発投手は、酒井匠。前日のカナダ戦に快勝し、予選リーグ最終日を待たずにPOOL・B１位通過を決めたこともあって、この試合では小山玲央、長井風雅の「二枚看板」を完全に温存。「決勝トーナメントの戦いを見据える」ことはもちろん、常に「チーム力で勝つことを念頭に置き、戦う！」という山口義男ヘッドコーチの構想通り、投手陣に限らず、この試合では今まで控えに回っていた選手たちをフルに起用し、必勝を期す戦術に出た。先発投手を任された酒井匠は、初回、先頭打者を自慢の速球でいきなり三振に斬って取る上々の立ち上がり。この直後、サード前にセーフティーバントを決められ、内野安打を１本許したものの、３イニングを貫禄の１安打ピッチング。４回裏から登板した２番手・メーンズ ジェーラン 秀吉は、常に走者を背負う苦しい投球内容となり、２点を返され、７回裏に３番手として登板した中島優人も次第に「目慣れ」してきたメキシコ打線に１点を奪われはしたが、最終的に序盤のリードが活かされる形となり、６－３で勝利。予選リーグPOOL・Bを５戦全勝、文句なしの１位通過で決勝トーナメントに駒を進めることとなった。

大会第5日・決勝トーナメント1位・2位戦／ vs アメリカ

7/28 Thursday

USA vs JAPAN

アメリカ	0000002	9	（日）小山玲央、○長井風雅 — 調和政
日　本	050000x	0	（三塁打）芦田翔

戦 評

勝てばセミファイナルに進出し、３位以上が確定するこの一戦。日本の先発投手には、予選リーグ第３戦（ニュージーランド戦）で被安打１の完封勝利を収め、「抜群の安定感」を示した「エース」小山玲央が起用された。その小山玲央は立ち上がり、先頭打者を四球で歩かせたものの、次打者の強烈なピッチャー返しを素早い反応で好捕し、一塁に送球してダブルプレー。３番打者も四球で歩かせてしまい、再び走者を背負う状況となったが、続く４番打者をショートゴロに打ち取り、まずは初回を無失点で切り抜けた。

初回の攻撃で三者凡退に終わり、先制点のほしい日本は２回裏、この回先頭の４番・松尾舞輝が四球で出塁。その後パスボールの間に二進、さらに５番・森田健斗の内野安打、６番・真◉海斗のサードへの強襲ヒットで無死満塁のチャンスを作ると、ここで７番・調和政が三塁線を鋭く破るタイムリーを放ち、二者が生還。なおも８番・池田泰一朗が四球、９番・今井悠貴は三振に倒れたものの、一死満塁のチャンスが続き、１番・芦田翔がレフトへ「値千金」のタイムリースリーベース。走者を一掃し、この回一挙５点を先取した。

日本の先発・小山玲央は、アメリカ打線に得点こそ許さないものの、この試合はどこか本調子とはいかない投球内容。得意の「ライズ」に本来の切れが感じられず、制球にも苦しむ等、初回から３回まで毎回走者を背負う苦しいピッチングとなった。これを見た山口義男ヘッドコーチは「早めの決断」に出て、４回表から長井風雅を投入。長井風雅はその回を三者凡退に抑え、５回表、６回表も持ち味の切れ味鋭い「ドロップ」を主体にピッチングを組み立て、走者を出すものの無失点。迎えた７回表、地元の大声援にも後押しされ、ホスト国としての「意地」を見せたいアメリカに２点を返されはしたが、大量得点は許さず、逃げ切り、５－２で勝利。セミファイナル進出を果たすとともに、今大会３位以上を確定させた。

Semi FINAL

大会第6日・決勝トーナメント セミファイナル／ vs ニュージーランド

7/29 Friday

NEW ZEALAND vs JAPAN

ニュージーランド	0000000	0	（日）○小山玲央 — 調和政
日　　本	010200x	3	（三塁打）真◉海斗、瓦口昴弥
			（二塁打）今井悠貴、芦田翔、池田泰一朗

戦 評

予選リーグ第３戦以来（この試合では日本が１－０で勝利）、今大会２度目となるニュージーランドとの対戦。日本は前日のアメリカ戦に続き「エース」小山玲央を先発に立て、必勝を期した。その小山玲央は立ち上がり、ニュージーランドの１番・ジェローム・マッケンジーをセカンドフライ、２番・ダンテ・マタカテアをピッチャーゴロ、３番・レイリー・マケアをキャッチャーフライに打ち取り、三者凡退。大事な初回をしっかりと無失点に抑えた。

一方、ニュージーランドの先発投手は、こちらも予想通り「エース」のダニエル・チャップマン。「大会屈指の右腕」同士がぶつかり合い、息詰まる投手戦になるかと思われたが、２回裏に早速試合が動く。日本はこの回先頭の３番・真◉海斗がセンターフェンス直撃のスリーベースを放ち、チャンスを作ると、６番・森田健斗は死球で無死一・三塁。この後、一塁走者・森田健斗が離塁アウトを宣告され、一死三塁。続く７番・池田泰一朗もショートゴロに倒れ、二死三塁となったが、ここで８番・今井悠貴がレフト前にしぶとく落とすタイムリー。三塁走者を迎え入れ、日本が１点を先制した。

試合の流れをつかんだ日本は、４回裏にも二死一塁から７番・池田泰一朗がレフトオーバーのタイムリーツーベースを放ち、２点目を追加。なおもこの後、ワイルドピッチで二死三塁のチャンスが続き、８番・今井悠貴が三遊間深くに強打。この打球がショートのグラブをはじく間に、三塁走者が本塁を駆け抜け、大きな３点目を挙げた。

日本の先発・小山玲央は、前日のアメリカ戦ではボールに本来の切れが感じられず、制球にも苦しむ場面が見られたが、この試合ではその不安を吹き飛ばすかのように、再び「安定感抜群」のピッチングを展開。自慢の「ライズ」を主体にしたピッチングの組み立ては変わらないが、投球の「力み」をうまく抑え、三振を狙いにいくというよりは「打たせて取る」コントロール重視のピッチングにシフトチェンジ。「大会屈指の右腕」にここまでコースをキッチリ突かれると、さすがのニュージーランド打線もなす術なく、わずか２安打と打線が沈黙。投打の歯車がガッチリと噛み合った日本が、ニュージーランドに３－０で完封勝利を収め、一足先にファイナル（決勝／ゴールドメダルゲーム）進出を決めた。

THE FINAL

大会第7日・決勝トーナメント ファイナル／ vs ニュージーランド

7/30 Saturday

NEW ZEALAND vs JAPAN

ニュージーランド	0001000	1	（日）○小山玲央 — 調和政
日　　本	0102001x	3	

戦 評

第11回世界男子ジュニア選手権大会もいよいよ最終日。前日、セミファイナルでニュージーランドに３－０の完封勝利を収め、一足先にファイナル（決勝／ゴールドメダルゲーム）進出を決めた日本は、この日、敗者復活戦（３位決定戦／ブロンズメダルゲーム）を勝ち上がってくるチームを待ち受け、「最後の決戦」に臨むこととなった。３位決定戦（ブロンズメダルゲーム）では、前日のセミファイナルで日本に敗れたニュージーランドと、「負けたらその時点で終わり」となる厳しい状況の中で連戦を勝ち上がり、「勢い」に乗るカナダが対戦。試合は５回表終了時点でカナダが７－４とリードし、有利に試合を進めていたが、その裏、ニュージーランド打線が爆発し、一挙７点を奪って逆転に成功。最終的にニュージーランドが計15安打を浴びせる猛攻で12－７と打ち勝ち、日本が待つファイナルへと駒を進めた。

ファイナルは、今大会３度目となるニュージーランドとの対戦となり、日本はこの優勝をかけた「大一番」に迷わず「エース」小山玲央を起用し、必勝を期した。その小山玲央は立ち上がり、１番・ジェローム・マッケンジーをファーストフライに打ち取ったものの、２番・ケーラム・ビショップを四球で歩かせてしまい、一死一塁。さらにこの後、盗塁、四球等で一・三塁といきなりピンチを背負ったが、ここから球速125㎞/hの自慢の快速球でニュージーランド打線を続けて内野ゴロに打ち取り、窮地を脱出。まずは初回を無失点で切り抜けた。

ニュージーランドの先発は、こちらも「エース」のダニエル・チャップマン。３位決定戦（カナダ戦）では先発を回避したものの、このファイナルではこれまで二度苦杯をなめさせられた日本に「リベンジ！」を誓って、再び登板してきた。日本の小山玲央と同じく、「今大会屈指の右腕」と評されるそのダニエル・チャップマンも、立ち上がりからいきなり128㎞/hを叩き出すなどエンジン全開。得意の膝元に「消える」ように落ちる「ドロップ」を主体に、初回は日本打線を三者連続三振に斬って取り、快調な滑り出しを見せた。

試合が動いたのは２回裏、日本は一死から５番・松尾舞輝が一・二塁間を破るヒットで出塁。６番・池田泰一朗のサードゴロの間に代走・坂田大士が二塁へ進塁すると、ここで７番・森田健斗が「迷いのないバッティング」で鮮やかにセンター前にはじき返し、１点を先取。「優勝」のかかったこの「大一番」でも、日本が大事な先制点を奪った。

THE FINAL

しかし、「ソフトボール王国」の威信をかけて戦うニュージーランドも黙ってはいない。１－０と日本リードで迎えた４回表、３番・レイリー・マケアがレフト前ヒットで出塁し、反撃の口火を切ると、これを犠打でキッチリと送り、一死二塁。５番・ハリソン・バルクは三振に倒れたが、６番・ジェイコブ・ズルシャーが四球。二死一・二塁とし、続く７番・ザック・ボイドがセンター前に「執念」で運ぶタイムリー。二塁走者が一気に本塁へ生還し、試合を振り出しに戻した。

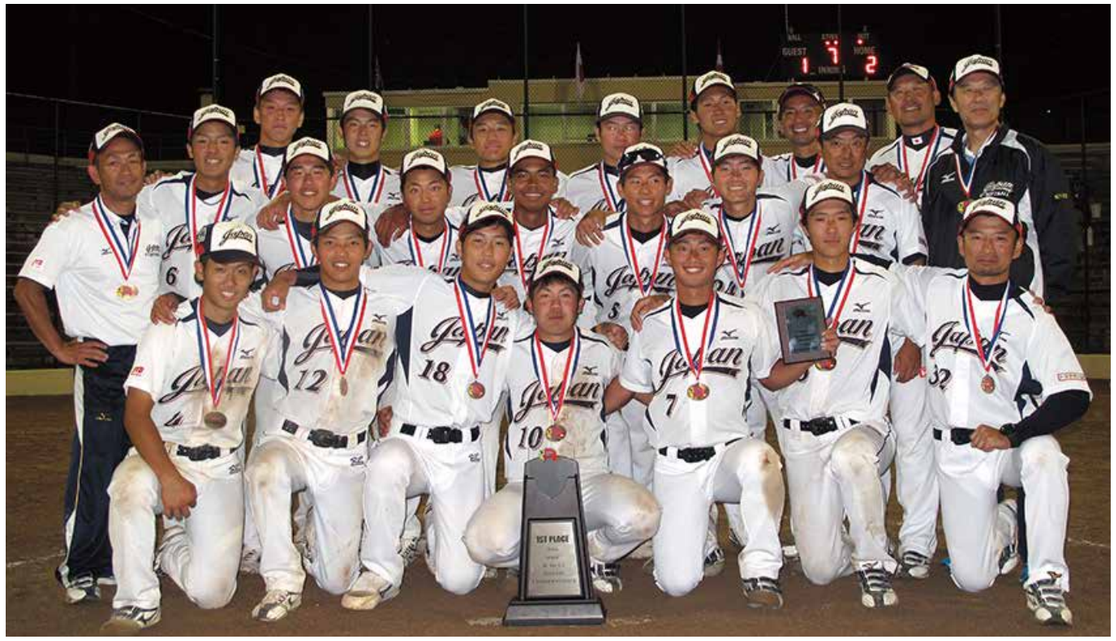
試合はこの後、日本・小山玲央、ニュージーランド・ダニエル・チャップマンの両エースが一歩も譲らぬ「投げ合い」を展開。互いに120㎞/h台のライズ・ドロップで押しまくり、１－１とがっぷり四つに組んだまま、いよいよ最終回へと入った。

７回表の二死二塁のピンチを凌いだ日本はその裏、この回先頭の５番・松尾舞輝がファースト前にボテボテの当たりを転がし、これが幸運にも内野安打。さらに６番・池田泰一朗の三遊間深い当たりに追いつき、二塁封殺を狙ったショートの送球が悪送球となり、この悪送球の処理をニュージーランド守備陣がもたつく間に、一塁走者・松尾舞輝の代走として入ったキャプテン・竹森歩夢が一気に本塁突入。果敢にヘッドスライディングで正面から突っ込んだが、惜しくも間一髪タッチアウト……。しかし、この竹森歩夢の気迫溢れる走塁が続く７番・森田健斗に大きな「勇気」を与え、最後はその７番・森田健斗がライトへ勝負を決める「値千金」のタイムリー。「ソフトボール王国」との息詰まる熱戦にとうとう終止符を打ち、日本が２－１と劇的なサヨナラ勝ちで見事優勝。第１回大会（1981年）以来、実に35年ぶりとなる「世界一」に輝いた。

今大会、無敗のまま「頂点」へと登り詰め、まさに文句なしの強さで「完全優勝」を成し遂げた男子U19日本代表。世界の強豪に臆することなく立ち向かい、自らの力で新たな時代を切り拓いて見せた彼らに、心から称賛の拍手を送りたいと思う。正直なところ、今回は大会に臨むにあたってチームが思うように仕上がらず、前回以上の苦戦を強いられるのでは……とも感じられた。しかし、これが「若さの無限の可能性」か、アメリカ・ミッドランドの地で選手たちは日々たくましく成長。「ここで世界一になり、男子ソフトボールの歴史を変える！」と皆が口を揃え、その公言を見事現実のものにして見せたのである。

この優勝は、男子ソフトボール界にとってまさしく「希望」そのもの。「新たな時代の幕開け」といってもいいだろう。今回の選手・スタッフは、大会期間中、優勝をめざすこととは別によくこう話していた。「自分たちの力で『男子ソフトボール』をもっと盛り上げていきたい！」と。「優勝」「世界一」という称号を手にはしたが、この言葉にもあるように、彼らの「挑戦」は決して終わることはない。純粋に、ただひたすらソフトボールに向かう気持ち。これから上のカテゴリー（ナショナルチーム）に上がっても、絶対に忘れないでほしいと強く思う。その思いがある限り、彼らの可能性はこうして無限に広がっていくのだから。次は真の頂点を極めるべく、ナショナルチームの一員となった彼らに会いたい。そしてまた、皆で「世界一になる！」という目標を高々と掲げたいものである。

誇り高き17名の戦士たちよ、また会おう！　そして…　本当におめでとう。

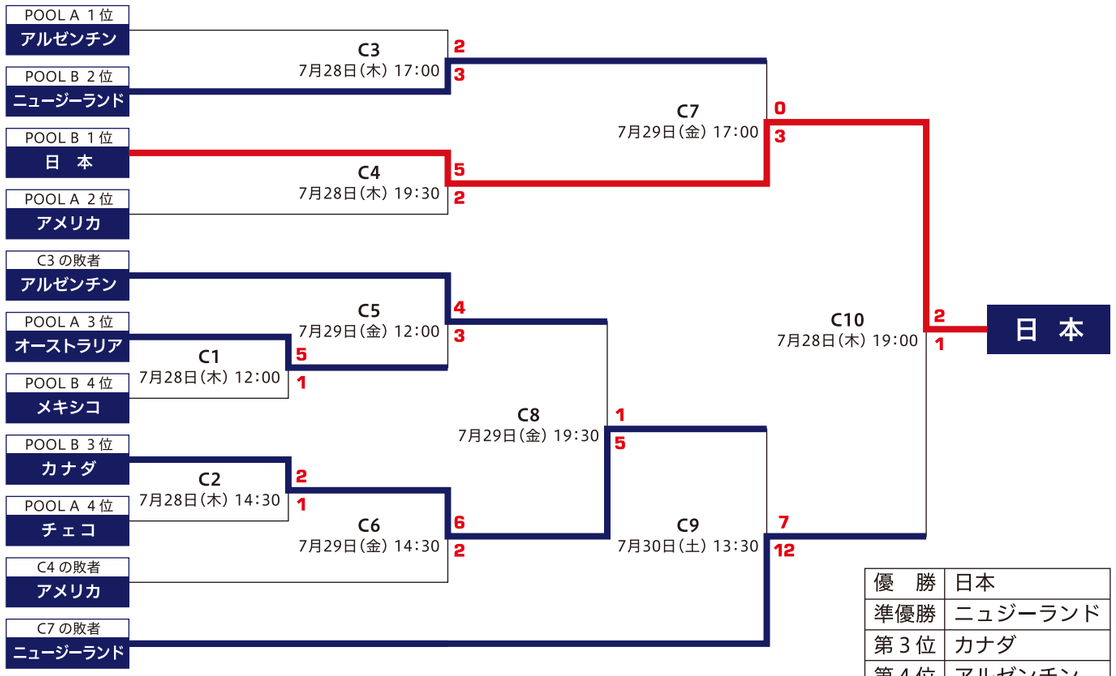


リーグ戦績表

POOL A	アルゼンチン	オーストラリア	アメリカ	チェコ	デンマーク	ボツワナ	勝数	敗数	得点	失点	順位
アルゼンチン		○ 9 － 1	○ 6 － 5	○ 10 － 0	○ 17 － 1	○ 6 － 2	5	0	48	9	1
オーストラリア	● 1 － 9		● 3 － 4	○ 3 － 2	○ 17 － 0	○ 8 － 0	3	2	32	15	3
アメリカ	● 5 － 6	○ 4 － 3		○ 3 － 2	○ 9 － 2	○ 14 － 0	4	1	35	13	2
チェコ	● 0 － 10	● 2 － 3	● 2 － 3		○ 8 － 0	○ 10 － 0	2	3	22	16	4
デンマーク	● 1 － 17	● 0 － 17	● 2 － 9	● 0 － 8		● 1 － 8	0	5	4	59	6
ボツワナ	● 2 － 6	● 0 － 8	● 0 － 14	● 0 － 10	○ 8 － 1		1	4	10	39	5

POOL B	ニュージーランド	日　本	メキシコ	カナダ	南アフリカ	イスラエル	勝数	敗数	得点	失点	順位
ニュージーランド		● 0 － 1	○ 11 － 1	○ 3 － 1	○ 16 － 1	○ 17 － 0	4	1	47	4	2
日　本	○ 1 － 0		○ 6 － 3	○ 9 － 1	○ 14 － 0	○ 8 － 0	5	0	38	4	1
メキシコ	● 1 － 11	● 3 － 6		● 0 － 3	○ 8 － 1	○ 7 － 0	2	3	19	21	4
カナダ	● 1 － 3	● 1 － 9	○ 3 － 0		○ 8 － 0	○ 8 － 1	3	2	21	13	3
南アフリカ	● 1 － 16	● 0 － 14	● 1 － 8	● 0 － 8		○ 12 － 1	1	4	14	47	5
イスラエル	● 0 － 17	● 0 － 8	● 0 － 7	● 1 － 8	● 1 － 12		0	5	2	52	6

決勝トーナメント 試合結果



優　勝	日本
準優勝	ニュージーランド
第３位	カナダ
第４位	アルゼンチン